

## 8月26日は「火山防災の日」です。

近年、富士山の想定される火口の範囲の拡大や、桜島で大規模噴火の可能性が指摘されたことなど、日本全国で火山活動が活発化した際の備えが急務となりました。火山災害への備えについての関心と理解を深めていただくため、活動火山対策特別措置法の改正により、8月26日が「火山防災の日」となりました。

8月26日は、明治44年(1911年)に日本で最初の火山観測所が浅間山に設置され、観測が始まった日です。日本には全部で現在、111の活火山があります。

気象庁では、特に活動が活発な50火山を対象に常時観測を行っており、北海道は9火山（アトサヌプリ、雌阿寒岳、大雪山、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山）が常時観測の対象となっています。

噴火災害から身を守るためには、気象庁が発表する火山防災情報に基づき、噴火警戒レベルに応じた行動をとることが重要です。この情報は、気象庁ホームページやテレビ、ラジオ、携帯電話、防災行政無線などで確認できます。また、火山防災マップで事前に情報を収集し、避難場所や想定される火山現象を確認しておくことも大切です。

気象庁では、より多くの方に火山について正しく知っていただき、火山災害に備えていただけるよう、「火山防災の日」特設サイトを開設しました。特設サイトでは、火山やその防災について学ぶコンテンツを多数用意しています。

8月26日の「火山防災の日」や9月1日の「防災の日」をきっかけに、火山への理解を深め、火山災害の発生に備えましょう。

問い合わせ先 網走地方気象台  
(電話：0152-43-4349)



網走地方気象台ホームページ



気象庁ホームページ  
「火山防災の日」特設サイトはこちらから

火山防災の日 特設サイト

8月26日が「火山防災の日」になりました。  
明治44年8月26日は、浅間山に日本で最初の火山観測所が設置され、観測が始まった日です。  
この特設サイトで、火山の魅力・懸念やその危険性を正しく理解し、火山災害に備えていただければと思います。

本特設サイトについて 「火山防災の日」とは?

火山を知る・火山災害に備える

- 火山とは？ 火山の魅力
- 火山災害から 身を守る
- 気象庁の 火山の仕事
- 日本の活火山 写真集

気象庁ホームページ「火山防災の日」特設サイト